

身 体 を 預 け、 そ し て 仏 蘭 が ど こ か の 壁 に も た	透 け た 襖 の 先 で は 番 才 が 同 じ よ う に 布 団 に	色 の 襖 へ と 視 線 を 移 動 さ せ る。	り と 上 半 身 を 起 こ し、 隣 の 部 屋 と を 隔 て る 灰	現 状 が 幸 せ な の か は わ か ら な い。 栗 は ゆ っ く	出 せ る わ け も な く、 目 を 覚 ま し た 今 で も こ の	な っ た は ず だ。 は っ き り と し た 答 え な ど 導 き	自 分 を、 ど う 捉 え た ら よ い の か と 考 え て 横 に	る こ と に 不 思 議 と 居 心 地 の 良 さ を 覚 え 始 め た	初 め て 規 則 的 な 時 間 に 追 わ れ る 生 活 を し て い	に 五 日 が 経 過 し て い た。 こ の 宿 屋 に 来 て か ら	世 界 に 一 つ だ け の 服 作 り を 始 め て か ら す で	に 感 じ ら れ た。	布 団 の 感 触 が 自 分 と そ の 世 界 と の 境 界 線 の 様	う な 世 界 を 澄 ん だ 空 気 が 満 た し、 身 体 を 包 む	井 が こ ち ら を 見 下 ろ し て い る。 黒 と 灰 色 の よ	い た ま ぶ た の 先 で は、 い つ も の よ う に 高 い 天	栗 は 目 を 覚 ま し た。 薄 っ す ら と 自 動 的 に 開			不 思 議 な 夜 明 け
--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	-----------------------------	--	--	--	--	---	--	--	---------------------------------

だ	食	繰	に	は	た	ら	を	覚	じ	着	化	だ	な	が		た	を	り	れ
け	堂	り	な	ほ	こ	っ	か	え	た	し	す	っ	く	肺	廊	。	擦	、	か
で	に	返	な	と	こ	た	く	、	こ	た	る	た	、	を	下		り	そ	か
名	は	し	な	ん	と	た	し	食	う	は	こ	た	視	満	に		し	し	か
取	す	考	ど	ど	を	た	、	堂	は	一	も	た	界	た	出		て	て	っ
が	で	え	な	な	し	た	食	で	何	度	も	。	の	し	て		な	な	っ
起	に	て	く	く	な	こ	飲	何	度	だ	。	先	に	聴	何		が	が	て
き	明	い	、	、	い	も	む	だ	っ	っ	。	に	覚	え	も		音	を	い
て	かり	た	こ	こ	限	何	コ	て	て	。	い	。	が	る	変		を	立	る
い	が	。	り	う	り	度	コ	あ	あ	。	っ	。	増	る	わ		て	て	は
る	灯		が	し	温	。	ア	に	。	。	。	。	え	景	ら		ず	。	ず
こ	つ		わ	て	度	。	心	。	。	。	。	。	る	色	な		に	。	。
と	て		か	、	に	。	を	。	。	。	。	。	こ	も	い		し	。	。
が	、		り	そ	同	。	温	。	。	。	。	。	と	い	つ		ま	。	。
わ	そ		あ	う	じ	。	め	。	。	。	。	。	。	つ	も		。	。	。
か	れ		ん	よ	こ	。	て	。	。	。	。	。	。	。	の		。	。	。
り	。		。	う	と	。	も	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。
安	。		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。
心	。		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。
す	。		。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。		。	。	。

る。洋服作りが始まってから毎日「景気づけだよー！」と美味しいおやつを届けてくれる彼女の存在は、慣れないことに苦戦する自分の心を少なからず元気づけてくれていた。シンと静まり返った宿屋。注ぐ光の少ないこの時間帯では、慣れた目が僅かな光を吸収して映し出すことでようやくモノの輪郭を把握することができている。粟は昨日もそうしたように顔を洗うために洗面所へ向かって廊下を歩き始めた。暗くて足元がおぼつかないので先に真っ直ぐ前に進み手摺り壁に手を添えるそうすると中央の大階段が視界いっぱいに広がり、自分が今こうして存在している場所の荘厳さを思い知らされることになるのだが、今朝はその視界の端に明かりが灯っていた。(あれは……女冥……さん?) カウンターの一部がオレンジ色の光に包まれその光を人型の影がくり抜いていた。

思	い		た	に	顎	に	の	軽	肘	女	や		い	女	こ	を	の	ぶ	凧
う	ぞ		。	に	に	に	の	く	をつ	冥	ん		た	性	と	受	の	女	は
よ	く			悟	添	見	表	手	をつ	は	。		。	に	な	け	間	女	カ
。	。			ら	え	え	情	を	いた	半				も	ど	て	に	冥	ウ
	。			れ	る	て	が	振	たま	身				こ	な	い	何	に	ン
	。			な	こ	く	、	る	ま	だ				う	な	た	度	に	タ
	。			い	と	る	提	。	ま	け				し	か	こ	か	そ	ー
	。			よ	で	。	灯	。	ま	向				て	つ	と	会	う	に
	。			う	口	思	の	。	つ	け				あ	き	。	話	。	に
	。			に	元	わ	光	。	つ	、				ら	い	。	を	。	。
	。			視	と	ず	と	。	と	未				本	や	。	交	。	。
	。			線	一	脈	相	。	軽	だ				来	。	わ	。	。	。
	。			を	緒	打	ま	。	。	カ				な	。	し	。	。	。
	。			女	に	た	っ	。	。	ウ				ら	。	、	。	。	。
	。			冥	隠	鼓	っ	。	。	ン				ば	。	。	。	。	。
	。			の	し	動	た	。	。	タ				永	。	。	。	。	。
	。			足	、	を	。	。	。	ー				劫	。	。	。	。	。
	。			下	。	。	。	。	。	に				関	。	。	。	。	。
	。			に	。	。	。	。	。	。				わ	。	。	。	。	。
	。			移	。	。	。	。	。	。				る	。	。	。	。	。
	。			し	。	。	。	。	。	。				。	。	。	。	。	。

怯	一	さ	「	方	冥	何	「	な	い	る	っ	筋	と	ら	う	お	で	て	こ
え	瞬	れ	あ	向	は	か	ふ	い	る	て	て	を	が	で	か	か	に	い	の
た	訪	て	あ	い	、	を	ー	の	で	自	口	が	で	は	つ	つ	知	る	抑
が	れ	い	あ	い	「	含	ん	の	、	分	を	が	で	と	同	っ	っ	揚	の
慌	た	た	あ	て	そ	ん	ん	、	そ	の	結	ど	で	と	性	て	た	あ	あ
て	夜	ん	の	グ	っ	だ	。	。	の	、	び	う	と	と	の	い	。	の	話
て	明	で	っ	ラ	！	よ	」	」	。	あ	固	し	し	も	自	。	、	方	が
空	け	す	！	ス	女	う	」	」	」	の	定	な	も	じ	分	。	、	、	、
気	特	か	女	を	冥	に	」	」	」	が	な	ら	ゃ	ゃ	で	、	、	、	、
を	有	？	さ	傾	さん	目	」	」	」	。	が	、	、	、	、	、	、	、	、
吐	の	こ	は	け	は	を	」	」	」	」	、	、	、	、	、	、	、	、	、
き	沈	ん	、	始	、	細	」	」	」	」	一	、	、	、	、	、	、	、	、
出	黙	に	、	め	そ	め	」	」	」	」	番	、	、	、	、	、	、	、	、
す	で	早	、	口	の	角	」	」	」	」	遅	、	、	、	、	、	、	、	、
。	は	く	、	を	あ	を	」	」	」	」	れ	、	、	、	、	、	、	、	、
	な	・	、	あ	げ	あ	」	」	」	」	て	、	、	、	、	、	、	、	、
	い	か	、	げ	た	げ	」	」	」	」	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	無	何	、	た	女	女	」	」	」	」	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	音	を	、	の	の	の	」	」	」	」	、	、	、	、	、	、	、	、	、
	に	な	、	の	の	の	」	」	」	」	、	、	、	、	、	、	、	、	、

「わたし？」	想定よりも響いてしまった自分の声を聞いて	余計に視線を落とす雫を見て、女冥は微笑み	ながら理由を答えた。	「わたしは八雲さんに内緒でこゝつそりお	酒を飲んでいただけよ。」	グラスの中の氷を「カラント」と雫にも聞こ	えるように鳴らしてみせる。	「なかなか“こつちの世界”にさゝ、こうし	て目的を持って来られることもないから、	やっぱりせっかくなら楽しみたいじゃない？	けど、『あんまりこつちの物を飲みなさん	なく』って八雲絶対言ってくるから、明け方	に一人でしっぽりって感じ。」	「そうだったんですね。はい・・・わかりま	す・・・？」	「こつちの世界”ってどういう意味だろう？	という疑問に思考の大部分を占領されて、自	分でも何を言っているのかわからない返事を	してしまおう。
--------	----------------------	----------------------	------------	---------------------	--------------	----------------------	---------------	----------------------	---------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------	----------------------	--------	----------------------	----------------------	----------------------	---------

し	せ	起	ば	っ	れ	諦	な	こ	ま	て	け		伸	く	肩	ダ	れ	か	
て	る	き	か	つ	ま	め	っ	ん	っ	本	ど		び	？	を	メ	て	く	そ
き	こ	を	り	て	で	た	て	な	て	当	、	た	た	？	落	だ	い	お	そ
た	と	し	が	て	の	よ	し	な	っ	に	全	い	と	？	と	と	い	お	う
。な	で、	して	目	でも	時	う	ま	時	っ	然	え	と	背	と	し	澄	る	お	し
ぜ	その	ても	に	が	間	う	う	ば	。だ	です	と	中	て	て	ん	機	儀	し	て
だ	気	も	映	ん	は	自	自	か	け	。む	に	声	い	で	で	に	を	て	再
か	持	が	っ	ば	なん	分	分	り	ど、	しろ	声	を	と	いた	た	身	し	訪	れ
自	ち	ん	て	っ	だ	が	嫌	変	それ	。そ	に	掛	少	は	ず	体	作	れ	た
分	を	ば	し	て	っ	嫌	に	に	でも	の	は	け	し	の	の	を	業	沈	黙
が	悟	っ	ま	い	た	な	る	自	自	空	は	ら	は	空	途	中	中	の	。雫
卑	らせ	て	い	こ	と	な	。そ	信	分	気	は	二	は	に	の	の	の	布	は
怯	ない	い	う	う	こ	な	ん	が	の	に	三	度	は	重	敷	敷	敷	が	二
な	よう	姿	姿	を	話	こ	と	あ	至	自	度	細	さ	さ	き	き	き	敷	、
人	い	を	見	早	に	を	を	あ	ら	信	い	は	を	を	詰	詰	詰	敷	三
間	よう	見	早	さ	な	を	を	こ	な	は	で	は	を	を	め	め	め	き	度
に	に	見	早	さ	な	を	を	こ	な	す	す	は	を	を	ら	ら	ら	き	、
思	に	見	早	さ	な	を	を	こ	な	し	分	は	を	を	ら	ら	ら	き	三
え	に	見	早	さ	な	を	を	こ	な	し	つ	は	を	を	ら	ら	ら	き	度

だ	え	の	し	っ	て	時	っ	っ	ね	な	分	う	「	洩	女		一	い	て
け	ち	至	い	た	き	間	ち	て	。	る	っ	し	何	を	冥	「	緒	る	仕
ど	ゃ	ら	結	自	た	を	ゃ	ダ	だ	ん	っ	て	か	す	の	そ	に	こ	方
そ	う	な	末	分	こ	掛	う	メ	か	だ	ダ	自	を	す	の	の	静	と	が
れ	ん	さ	だ	し	と	け	の	だ	ら	ろ	メ	分	作	す	そ	か	か	が	不
を	だ	を	け	か	で	て	。	さ	く	く	だ	っ	っ	っ	の	・	に	バ	い
乗	よ	認	ど	残	も	、	せ	、	途	っ	な	て	い	っ	順	拭	レ	し	。
り	。	め	、	ら	、	た	く	っ	中	あ	あ	っ	る	っ	だ	う	ま	ま	。
越	過	続	で	な	途	く	っ	か	で	っ	っ	時	っ	っ	な	う	う	う	。
え	程	け	も	い	中	く	か	く	辞	っ	っ	っ	さ	っ	ん	の	の	の	。
て	は	る	み	。	で	さ	人	人	め	っ	っ	っ	く	っ	だ	方	方	方	。
形	み	こ	ん	こ	辞	ん	よ	よ	ち	っ	っ	っ	、	っ	が	が	が	が	。
に	ん	の	な	れ	め	悩	り	早	ゃ	っ	っ	っ	み	っ	苦	苦	苦	苦	。
で	な	の	な	上	ち	ん	早	く	う	っ	っ	く	ん	っ	痛	痛	痛	痛	。
き	辛	方	な	に	や	で	起	き	と	っ	っ	ん	な	っ	に	に	に	に	。
た	い	が	辛	自	う	が	き	て	ダ	っ	っ	だ	な	っ	思	思	思	思	。
時	ん	苦	い	分	と	ん	き	、	メ	っ	っ	だ	な	っ	わ	わ	わ	わ	。
に	だ	痛	ん	悲	ダ	ば	、	っ	だ	っ	っ	だ	な	っ	ず	ず	ず	ず	。
初	よ	に	自		だ	っ	、	っ	自	っ	っ	だ	な	っ					。
め	。	思	分		だ	っ	、	っ	分	っ	っ	だ	な	っ					。

ろ	は	て	注	女	が	ぱ	す	「	も	ら	れ	名		肌	き	宿	そ	げ	て
う	も	い	ぎ	冥	ら	い	っ	完	も	何	い	前		色	始	屋	れ	る	、
と	う	る	始	は	楽	弱	ご	壁	声	一	に	を		だ	め	の	だ	こ	、
し	な	。	め	左	し	音	く	な	は	つ	拭	呼		っ	て	が	け	、	、
て	く	。	た	手	め	吐	難	ん	こ	体	き	ば		た	い	で	い	、	、
空	な	。	光	を	ば	い	し	て	ち	取	取	れ		こ	る	。	。	、	、
気	な	。	を	ひ	い	い	い	を	ら	っ	つ	、		を	。	。	。	、	、
を	な	。	結	ら	い	と	こ	を	ひ	て	て	、		思	。	。	、	、	、
撫	な	。	え	ら	と	わ	を	や	ら	い	い			い	。	。	、	、	、
で	な	。	て	と	た	た	っ	っ	と	な	し			出	。	。	、	、	、
た	な	。	い	動	し	は	て	い	動	な	は			し	。	。	、	、	、
。あ	な	。	な	か	思	う	い	い	か	に	急			た	。	。	、	、	、
ん	な	。	い	し	う	よ	い	し	し	で	い			自	。	。	、	、	、
な	に	。	黒	話	く	く	だ	、	誰	す	な			分	。	。	、	、	、
に	遠	。	い	を	お	。	よ	誰	に	す	り			の	。	。	、	、	、
遠	く	。	髪	終	辞	。	。	だ	だ	り	涙			足	。	。	、	、	、
く	見	。	を	え	儀	。	。	っ	っ	を	を			の	。	。	、	、	、
見	え	。	が	た	を	。	。	。	。	き	き			甲	。	。	、	、	、
え		。今	反	。。	し	。。	。。	。。	。。	き	き			が	。。	。。	、	、	、

